



みなさんと議会をつなぐ



議会だより

平成 27 年 2 月
発行：比布町議会
編集：議会広報特別委員会

PIPPU TOWN ASSEMBLY



成人の日を迎えた27名（男15名・女12名）

1 2月定例会・審議結果	2～3
ここが聞きたい一般質問	4～5
委員会の活動報告	6～9
5町・管内議員研修会	10～11
議会のうごき・編集後記	12

12月定例会

次のとおり決まりました

12月16日

平成26年第4回定例会は、12月16日に開催され、町長の行政報告では、シーズンを終えたグリーンパークびっぶの利用状況、びっぶスキー場のグレンデ状況及びシーズン券販売状況、更には遊湯びっぶの利用状況について報告がありました。

審議された主な案件は、専決処分1件、定住自立圏の形成に関する協定の一部変更、指定管理者の指定、条例の制定が3件、国民健康保険条例の一部改正、補正予算が3件、以上10件の議案が提出され、原案のとおり可決されました。

なお、紙面の都合上、その内容は要旨のみを掲載させていただきます。

承認

◆専決した事件の承認

平成26年度一般会計補正予算(第5号)は歳入歳出予算に353万8千円を追加し、総額36億4667万1千円とするもので、原案のとおり承認されました。

協定

◆定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定

旭川市が市民を対象に単独で実施している無料法律相談事業に、定住自立圏事業として圏域住民も対象とするものとして協定内容に追加するもので、原案のとおり可決されました。

指定管理者の指定

◆指定管理者の指定

地方自治法の規定に基づき、比布町交流促進施設「良佳プラザ・遊湯びっぶ」の指定管理者の指定について議会の議決を求めたもので、原案のとおり可決されました。(賛成9・反対1)

なお、指定管理者は次のとおりです。

・株式会社 荒尾

代表取締役 荒尾孝司 氏

条例

◆比布町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定

比布町家庭の保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

◆比布町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

◆比布町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

新条例の制定3件は、平成24年8月に国で成立した「子ども子育て支援法」をはじめとする3つの法律に基づくものです。

町では、国が定める基準を踏まえ、保育の量的拡大・確保、地域の子ども子育て支援の一層の充実等を目指して平成27年4月から施行します。

主な内容として、事業者の保育所等の施設、設備及び運営等を町が確認するための基準です。

保護者の就労時間によって最大保育時間の取扱いや、保育料の算出基礎が所得税から町民税に変更。

認可を受ければ誰でも行う事が可能な家庭的保育事業等について、基準に適合するかどうかの審査をするための認可基準等の制定。

放課後児童クラブに従事する者及び員数を制定。

など、国の法律に「従うべき基準」と「参酌すべき基準」に

沿って定めたもので、原案のとおり可決されました。

◆国民健康保険条例の一部を改正する条例

健康保険法施行令の一部改正による出産育児一時金の額を改めるもので、原案のとおり可決されました。

なお、個人に支払われる金額につきましては42万円から変更はありません。

補正予算

◆平成26年度比布町一般会計補正予算(第6号)

歳入歳出予算の総額にそれぞれ2303万8千円を追加し、総額36億6970万9千円とするもので、原案のとおり可決されました。(賛成9・反対1)

◆平成26年度比布町国民健康保険特別会計補正予算(事業勘定)(第2号)

歳入歳出予算の総額にそれぞれ28万円を追加し、歳入歳出予算の総額を6億6393万2千円とするもので、原案のとおり可決されました。

各会計補正額と補正後の総額

会計区分	補正額	補正後の総額
一般会計 (第4)	3,667千円	3,643,133千円
一般会計 (第5)	3,538千円	3,646,671千円
一般会計 (第6)	23,038千円	3,669,709千円
特別会計 国民健康保険 (第2)	280千円	663,932千円
特別会計 介護保険 (第2)	1,188千円	663,932千円

() 内は補正回数

◆平成26年度比布町介護保険特別会計補正予算(第2号)
歳入歳出予算の総額にそれぞれ118万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を5億5244万6千円とするもので、原案のとおり可決されました。

第4回臨時議会

11月17日

条例

◆議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

◆特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

議会議員、特別職及び教育長の期末手当に関する支給額の割合を6月分は100分の190を100分の197.5に、12月分は100分の205を100分の212.5に改正するもので、原案のとおり可決されました。

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

職員の通勤手当の額の改正、勤勉手当に関する支給額の割合を100分の67.5を100分の75に、(再任用職員は100分の30を100分の35)に、更に行政給料表を改正するもの

で、原案のとおり可決されました。

補正予算

◆平成26年度比布町一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出予算の総額にそれぞれ366万7千円を追加し、歳入歳出予算の総額を36億4313万3千円とするもので、原案のとおり可決されました。



第4回定例会において、次のとおり意見書を採択し、それぞれ関係機関に提出しました。

◆軽油引取税の課税免除特例措置の延長を求める意見書【提出先】

衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣



Q

『比布町の創生戦略』をどのように

展開していくのか伺います

A

幅広く町民の意見を聴き

戦略の策定に向けて努力、判断して行きます

佐藤議員 平成26年9月の内閣改造にもない、まち・ひと・しごと創生本部が設置され、以前のようなばらまきや縦割りを排除するとともに、各省内に、ワンストップの対応を徹底し地方創生を目指し、地方自治体や住民が主役となり、独自の発想と創意工夫、個性と魅力あふれる町づくりに取り組む地域を国が直接支援するとされ、単発的な事業ではなく事業を行う上での経済波及や相乗効果を国に示す、提案型の予算要求が、モデル事例として既に開始されております。

11月21日には、地方創生の理念等を定め、「まち・ひと・しごと創生法案」と「地方創生関連、2法案」がいよいよ可決・成立しました。

地方創生をどのように分析し、『比布町の創生戦略』を展開するか、町長の所見を伺います。

伊藤町長 これまでの地方改革は、永きにわたり地方分権・地域主権・地方再生など、さまざまな議論がされてまいりましたが、新たな地方負担増につながるなどの、効果が実感できない面も多々ありました。

しかし地方創生は、本町の将来に向けても大きな課題であることから、この地方創生政策にあたり、第11次町づくり計画の更なる具体化や見直しとともに、国・道のビジョンと総合戦略を勘案すると同時に、幅広く町民の意見を聞く協議会(仮称)の設置等を含め『比布町総合戦略』策定に向けて努力・判断して参ります。

佐藤議員 地方行政は特に町民との距離感が近く、常に期待と関心が集中します。また、定住先を求めている人には、町の将来像が明確であることが、注目される要因にもなります。

時代や周囲に先駆けた、『比

布町総合戦略の樹立と実践』を期待します。

日々更新される関係府省や道庁・近隣町、地元比布町の現状と諸課題を常に調査・研究し、町づくり戦略の実践を司る専門部署を本町行政機構に配置する必要はないか伺います。

伊藤町長 地域戦略を司る専門部署の配置については大変重要な事だと思ひもあり、新たに設置すること、現状の総務企画課の充実強化を図ることを、新年度予算編成時の検討課題として判断したいと思ひます。

佐藤議員 北海道町村議会議員会の資料に、住基台帳を基準とした、全道各地の市町村人口と、各市町村の普通会計と職員数、人件費の状況が掲載されておりました。

上川管内の人口3千から4千人の近隣町(上川・愛別・和寒・剣淵・下川)の5町の平均値に着目し、比布町との比較をしま

した。

「5町平均人口 対 職員数」。「5町平均歳出 対 人件費」は、同規模5町平均に比べ、比布町は共に少なく、また「職員1人当たりの対応町民数」は5町平均より多いことが判明しました。

行政機関も電子化が進み、作業効率の向上を目指しますが、同規模の行政機能を維持するためには一定数の人員確保が必要とされ、システムを使いこなすにも専門的な知識と経験が不可欠とされ、以前の様に安易に補助や手助けが出来ない状況にもあります。

現在、比布町の例規集に示されている町職員の定員が、適正数であるか、今一度検討する必要があるか伺います。

伊藤町長 以前の職員定員数は、行財政改革に基づき、当初職員数を65人という数字を国に示した経緯があり以降、行政改革集中プランを進めていく中、今現在では68人としておりますが、それが適正かどうか、疑問に思う機会も度々ありました。

適正な人数を見極め、更に職員の能力の向上を目指した配置体制を確立できるよう、努めてまいります。



遠藤八議員

文部科学省の中央教育審議会では、小学校と中学校を統合し、9年間の義務教育を自由に改変できる「小中一貫教育」の制度化に向け、特別部会を設けて議論を進めています。

文科省の調査では「教職員の負担感・多忙感」(85%)や「教職員間での打ち合わせ時間の確保」(82%)、「小中合同の研修時間の確保」(75%)など、教職員の負担増が大きな課題になっていることが示されました。

東京都品川区では18の小中学校を6つの「小中一貫校」に統合し、「マンモス校化」に対する懸念が出されています。教育がいつそう競争主義的なものになり、容認できるものではありません。

今必要なのは、六三制度を変えることではなく、子どもも教師も親もじっくり教育に向き合える時間と余裕の確保。正規教

員の増員と少人数学級の実現。学力テスト至上主義はやめることです。

よって、小中一貫教育の実践の結果で早期導入は拙速すぎます。十分慎重にして頂きたい。

今後、教育委員、教師、父母、地域を巻き込んだの小中一貫校の進捗状況を知らせ、意見交換の機会の設置を設けていただきたいと思えます。比布町小中連携協議会の審議内容、視察報告、またPTAへの告知について教育長に伺います。

谷 教育長

本年度から向こう3年間、北海道教育委員会の指定を受けて「小中連携・一貫教育実践事業」に取組むことになり、9月に「第1回比布町小中連携教育推進協議会」を開催して、今後の取組みについて協議したところです。具体的には、9年間を見通した指導計画の作成や全国学力・学習状況調査などの結果分

析による課題の明確化と共有、合同研修会・先進校視察・相互乗り入れ授業などを実施することとしています。

滋賀県の小中連携校と小中一貫教育校の2校を先進校視察し、成果や課題については文部科学省の実態調査の結果とほぼ同様です。小学校と中学校の義務教育9年間に連続性を持たせた教育を行い、子どもたちに学力の向上や豊かな人間性、正しい心身を育むために小中連携を進めていくには、小中学校の教職員の相互理解を深めることが何よりも重要であると思われま

す。保護者やPTAの皆さんには、学校だよりや懇談会において、小中連携・一貫教育実践事業の目的や具体的な取り組みについてお知らせしています。

課題についてしっかりと検証・研究するとともに、現在の小中学校の独自性を重視しながら、丁寧な議論を進めていく必要があると考えています。

【その他の質問】
遠藤八議員

◆ぶんぶんハウス・ライダーさんの観光人口の交流の改善を利用者をお世話している方から良佳村ゾーンに移転させてはどうかとの意見がありますので町長に伺います。

◆高齢者移動「びびたく」の対象拡大を

町民から同居している子どもが働きに出ていて平日の移動に困難がある。対象拡大にならないかとの声が届いています。対象範囲を広げていく考えを町長に伺います。

(紙面の都合上、質問のみです)

Q

小中一貫教育の考え方について

A

小中学校の独自性を重視し、丁寧な議論を進めて行く必要があります



委員会の活動

activities

総務常任委員会

▼▼▼12月8日開催

【生涯学習課】

《協議事項》

- ・比布町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定（案）について

- ・平成26年度教育費関係補正予算（案）について

- ・比布中学校校舎改築事業について

- ・平成26年12月3日第4回改築検討委員会（役場会議室）

《報告事項》

- ・平成27年度就学予定児童について

男13名、女8名

- ・君の夢プロジェクト推進事業について

- ・教育委員会制度改革について

- ・第66回成人式の開催について

平成27年1月11日13時30分

- 男14名 女15名
- ・蘭留小学校跡地利用について
- ・役場内部検討委員会からの報告

【総務企画課】

《報告事項》

- ・第4回議会定例会提出議案について

- ・善行表彰について

- ・北4線11号 加藤周吉様
- ・選挙管理委員会委員の補欠について

- ・平成26年11月26日 第31回
- ・選挙管理委員会において報告

- ・ふれあいタウン販売状況について

- ・残10区画中6区画販売残り4区画

- ・今冬の節電対策について
- ・役場庁舎等の節電に向けた

- ・取組計画の説明

- ・諸工事の発注状況について

南比布駅、北比布駅、避難所サインの設置

《協議事項》

- ・専決した事件の承認について
- ・選挙費委託金など

- ・定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定について

- ・無料法律相談事業

- ・一般会計補正予算（第6号）について

【保健福祉課】

《説明及び協議事項》

- ・「子ども・子育て支援新制度創設」に係る条例の制定について

- ・子ども・子育て支援制度に係る比布町が定める基準（案）

- ・比布町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例（案）

- ・比布町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例（案）

- ・比布町国民健康保険条例の一部を改正する条例（案）

- ・一般会計補正予算（案）

- ・国民健康保険特別会計補正予算（案）

- ・介護保険特別会計補正予算（案）

- ・介護保険特別会計補正予算（案）

《報告事項》

- ・高齢者の門口除雪申込み状況について

- ・申請世帯108世帯
- ・高齢者等移動支援（びびたく）利用状況について

- ・登録者数82名 利用人数66人（11月末現在）



移動支援車「びびたく」

- ・各種検診受診状況について

- ・各種医療費の状況について
- ・介護保険事業利用状況について

- ・要支援1～要介護5

315名（10月末時点）

【税務住民課】

《報告事項》

- ・平成26年度（10月末）町税等の調定及び収入状況
- ・上川広域滞納整理機構について（10月末現在）

218件 218人 徴収金額767万8745円
（比布分）12件 12人
徴収金額103万9573円

- ・住民基本台帳カード交付状況について

平成26年4～10月末現在
3名

- ・人口推移表（10月末現在）

3939人
男1858人
女2081人
世帯数 1842世帯



産業建設常任委員会

12月10日開催

【建設課】

《報告事項》

- ・諸工事の発注及び進捗状況に

ついて

- 西町駅前団地A棟建設工事設備等の遅れにより契約工期を12月30日まで延長しました 進捗率70%
- 平成26年度除雪計画（案）

町道除雪路線 170.0km
町道延長 170.0km
総除雪延長 125.2km
除雪体制

除雪トラック 3台
除雪専用車 1台
除雪ドーザ 2台
小型ロータリー除雪車 1台
ミニホイールローダー 1台



大型除雪車で、周囲に気を遣いながらの排雪作業風景。細かな技術が必要です。

除雪従事者

町職員 嘱託1名
臨時職員 10名

- 駅前通り線の除排雪、管理について今後、町で協議が必要。

公営住宅内、外の除排雪の区割。

- ・平成26年まちづくり要望事項について

- 《協議事項》
- ・平成27年度建設課所管工事予定について

西町駅前団地B棟建設、くるみ団地立替工事等行ないますが、立地場所等、町有地に建てていくが、入居者の年齢、コンパクトシティ化を考慮する等議論が必要と考えます。

【農林部門】

《報告事項》

- ・平成26年産出荷状況

米 7万9578俵
（農協出荷分）

小麦 4112俵（〃）

大豆 1050俵（〃）

小豆 825俵（〃）

そば 683俵（〃）

※27年より規格外は交付金対象外

- ・平成26年度 経営所得安定対策交付金について

①畑作物直接支払交付金 大豆、麦、そば等件数77件 交付金額 3573万4200円

②米の直接支払交付金 対象面積11万7399a 件数 174件 交付金額 8804万9250円

③水田活用直接支払交付金 (1) 戦略作物助成 件数234件 交付金額 1億4608万1500円

(2) 産地資金 [道枠] 交付金額 9691万4146円

[地域枠] 交付金額 1億4244万7114円
総計5億922万6210円

- ・平成26年度有害鳥獣駆除対策（エゾシカ）11月末現在 21頭
- ・中山間地域等直接支援制度について

《協議事項》

- ・一般会計補正予算について（第6号）森林整備地域活動支援交付金

平成27年度産米 生産数量目

標の配分ルールについて

主食米と備蓄・加工米の補助金

・交付金の逆転等について今後本町で考えなければならぬ。

【商工・観光部門】

《報告事項》

・「遊湯びっふ」の運営実績と施設管理料について

11月現在入浴者数

6万9849人

宿泊者数 7252人

合計 7万7101人

前年比 95.5%

現在のA重油価格 @93円

・「グリーンパークびっふ」営業結果について

平成26年度 2万5人

618万3560円

前年比 89.20%

過去最高年度 平成15年

5万4441人、

1914万9千円

ガソリンの高騰やプレイ人口の固定化、パークゴルフ

人数の減少等、今後の運営について協議が必要と考

える。

・「びっふスキー場」シーズン券（早期販売実績）状況につ

いて

今年255件（昨年221件）

昨年から町外（ゼビオスポーツ）にてシーズン券を販売。

《協議事項》

・議会提出議案について

指定管理者の指定について

・「びっふ」スキー場の運営につ

いて

【農業委員会】

《報告事項》

・平成26年度水稲生産量の答申

について

10a当たり平均収量

578kg（前年566kg）

・農地法及び基盤強化法による

農用地集積状況について

産業建設常任委員会

12月25日開催

【建設課】

・西町駅前団地A棟現地視察に

ついて

ユニバーサルデザインは勿

論だが利用者の事を考えて

いる室内でした。入居が待

たれます。

【商工・観光部門】

・びっふスキー場センターハウ

ス内外装、運営について協議

しました。



平成26年12月に完成した西町駅前団地

皆さんも傍聴しませんか

次回の定例会は3月に開会の予定です。詳しい日程は、無線放送等でお知らせしていますので、ご留意ください。

◆皆様の傍聴をお待ちしています。◆



議会改革 特別委員会報告

- 一般質問は、傍聴者により分かりやすく『一問一答方式』を採用しました。
- 議員定数を11人から9人にしました。



議会改革特別委員会

【議会改革特別委員会報告】

議会改革特別委員会に付託された事件について、会議規則第77条の規定により調査の結果、次のとおりです。

《委員会設置経過と調査・研究事項》

比布町議会では、平成24年3月12日に議会改革特別委員会を設置、委員長に那須莞爾副議長、副委員長に澁谷興二議員を選任し、延べ16回にわたる会議、他町議会への視察も含め鋭意討議を重ね、より町民に理解される、開かれた議会を作るための調査・研究を行った。

《議会改革の具体的事項について》

(1) 公聴会の必要性について
町民アンケートを実施し、その結果を踏まえ、議会広報特別委員会で検討、結論としては、町民、議会が情報を共有するため「議会だより」等広報の充実を図ったうえで、公聴会の性質上、単なる意見交換の場となることなく、重要案件が発生したとき等、議会において広く町民の意見を必要とする場合に限り公聴会を開催することとなったことから、本委員会としても了承した。

(2) 一般質問後の追跡調査について
一般質問に対する追跡調査については、必要に応じ調査、検証を継続し、議会だよりで報告することとした。特に町民に直

結する課題について、一般質問の後の行政側の対応やその結果を分かりやすく伝えるために、質問をした議員自らがまとめ報告することとした。

(3) 一問一答方式の採用について

一般質問において、傍聴者により分かりやすく、集中して論戦を交わすことが容易な一問一答方式への変更が多くの議会で行われている。

当議会においても、近隣町議会の傍聴を始め、この方式のメリット、デメリットを検討した結果、平成25年9月の定例会一般質問から試行的に一問一答方式も取り入れ、一括方式と選択制で行った。試行から1年間で8議員から25問の一般質問が成された。

議長への報告書の提出及び議会報告の後、速やかに議会会則、先例等の改正を実施し、一般質問は一問一答方式のみとし、質問時間は執行側答弁を含め45分以内、答弁書の提出を求め、反問権も認めることで確認をした。

(4) 議員定数及び報酬について

本委員会最大の課題とも言え

る議員定数については、5回の委員会でも集中審議され、平成25年2月に実施した町民アンケート結果、町民世論や人口の減少など様々な要因を考慮したうえで、3月11日開催の本委員会において採決により、議員定数を現行の11人から9人にすることが決定され、次期統一地方選挙から議員定数は9人とすることとなった。

また、定数削減に際し議員報酬等についても審議した。

定数削減後の委員会構成については、これまで同様に2常任委員会を設置し、委員会定数を5人として、重複委員は両常任委員長とする。

(5) 議員の資質向上のための勉強会について

全道、管内町村議会議員の研修会等への参加で研鑽を図り、必要に応じ、各団体との懇談、協議等を通じ課題を探索し、知識、能力を向上させ、意思決定、政策立法及び行政監視機能の充実を目指す。

現状においては、各常任委員会レベルにおける各団体との懇談会などの開催が有効との結論となった。

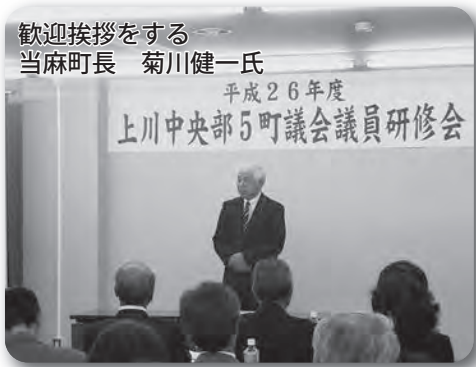
10月27日
当 麻 町

5 町 議 員 研 修 会

今年の中央部5町議会議員研修会は、10月27日、当麻町で開催され、『2件の公営住宅』と、この春新設された、『公民館施設ままとまーる』と町が耕作する『食育施設たんぼの学校』整備事業計画を研修して参りました。

■駅前団地は平成22年度の単年度計画、2DK・2LDKの4棟16戸、利便性の高い中心市街地の立地条件で国が推進する、豊かでゆとりある住生活の実現の功績が認められ、発注者・施工企業ともに、国土交通大臣表彰を受賞した作品でもあります。

■ニュータウン団地の造成は平成23年度より計画が開始され、2DK〜3LDKの間取りで、本年建設中の4棟が完成すると、全14棟56戸の計画全てが完了します。



歓迎挨拶をする
当麻町長 菊川健一氏



建設中の公営住宅
ニュータウン団地の視察

■公民館施設『ままとまーる』は、町の文化・芸術・学習活動を高め、町民が生き生きと活動できる公民館で、施設の前面に位置した「ばりんりゅうもーる」には、町の文化の一つでもある、『蟠龍と大きな銅鑼』が展示・保存され、建物全体に温かな地域材がふんだんに使用され、特に大ホールは上質な音を創る音響反射材、電動で可動収納する観覧席が印象的でした。

どの建築物もユニバーサルデザイン視点に立った建物で、シンプルなデザインに機能を保持することにより、イニシャルコストの縮減が図られ、地域材の有効活用により、地元産業の振興・雇用機会の拡大にも寄与しています。

■『たんぼの学校』整備事業



計画は1.93ha程の市街地に位置する条件不利農地を町が買い取り、独自に用排水・基盤・遊歩道・植林・農舎を整備し、従来の田んぼの学校のほかに、あぜ道ウォーキングコース、防風機能を合わせた友情の意をもつ160mの北コブシ並木、イベントエリアの整備を行い、いつでも農と健康にふれ、季節の移り変わりを、五感で感じることを出来る計画でした。

いずれも、明確なコンセプトを持ち、町民全ての世代に優しく、数多くの発想と創意工夫が織り込まれたものであります。

【佐藤 康則】



10月28日
鷹栖町

管内議員研修会

平成26年10月28日鷹栖町『たかすメロディーホール』において上川町村議会研修会が開催され、本町から10名の議員が参加しました。今回初めて旭川市以外での開催となりました。



長谷川 幸 洋 氏

◆研修は2名の慶応義塾大学卒講師による講演でした。

1人目の講師は東京新聞・中日新聞論説副主幹ジャーナリスト 長谷川 幸洋氏の「政局展望」という演題で始まりました。長谷川氏は「ビートたけしのTVタックル」など多くのテ

レビコメンテーターとして活躍されており、多くの著書も執筆されています。

◆政局については大臣の辞任問題や閣僚によるスキャンダル問題などの話題が主でした。世界経済では中国、ロシア経済は今後衰退していく公算が強く、国際的に心配されるという内容でした。特に関心を持ったのが、国内の景気回復が一向に進んでおらず、消費税増税先送りについてこの時期にすでに明言しており、衆議院解散選挙をも予測するような内容であった事です。



樋 口 美 雄 氏

◆二人目の講師は慶応義塾大学商学部教授 日本創成会議メンバー 樋口 美雄氏による「地域の雇用と産業創生」という講演でした。

樋口氏は日本創成会議のメンバーとして、人口の年齢層別推計を基に、若い女性が増加する都市部へ流出することにより地方の人口減が加速し地方自治体が衰退していくという内容の提言を26年5月に発表しました。これまでこの国の施策の限界から自立していく事が大切で、地域の特性を活かした

雇用など、地方の取るべき対策を駆使し、若者の都市部への流出を防がなければならぬという内容でした。すでに地方は様々な対策に取り組んでいますが、まだまだ責任は国任せである。『地方創生の立案は国の役割で行い、各市町村が責任を持つ事が必要ではないか』若者が地域の為に自ら考え、国内外の良い取組みなどを参考にし、自分達の地域のありかたを考えさせることが大切ではないか』と語っていた事に、人口減少に歯止めをかけるヒントがあるのではと感じました。

【浅野 章雄】

◆◆◆ 議会のうごき ◆◆◆

11 月

- 2日 文化賞・文化奨励賞贈呈式 (福祉会館、各議員)
- 10日 総務常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 11~12日 上川町村議会議長会臨時総会全国町村議会議長大会 (東京都、議長)
- 12~15日 上川中央部市・町議会議長現地研修会 (石川県、議長)
- 17日 議会運営委員会 (役場、各委員・議長)
第4回議会臨時会 (役場、全議員)
議会改革特別委員会 (役場、全委員・議長)
高橋勝寛氏名誉町民祝賀会 (福祉会館、全議員)
- 22日 中央小開校50年記念式典 (中央小、各議員)
- 27日 上川中央部市・町議会正副議長会議 (美瑛町、正副議長)

- 11日 議会運営委員会 (役場、各委員・議長)
- 16日 第4回議会定例会 (役場、全議員)
- 22日 大雪消防組合議会定例会 (美瑛町、各組合議員)
- 25日 産業建設常任委員会 (役場、各委員・議長)

1 月

12 月

- 1日 ぴっぷすスキー場会場式 (ぴっぷすスキー場、各議員)
- 8日 総務常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 9日 大雪浄化組合議会定例会 (愛別町、各組合議員)
愛別町外3町塵芥処理組合議会定例会 (愛別町、各組合議員)
- 10日 産業建設常任委員会 (役場、各委員・議長)

- 7日 比布消防団出初式 (比布コミセン・改善センター、各議員)
- 8日 比布商工会新年会 (商工会館、副議長)
北海道議会副議長木村峰行新年交礼・道政報告会 (旭川市、議長)
- 11日 第66回比布町成人式 (改善センター、各議員)
- 19日 議会広報特別委員会 (役場、各委員)
- 20~21日 上川町村議会議長会役員会 (旭川市、議長)
- 22日 産業建設常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 23日 今津ひろし比布後援会新年会 (商工会館、議長)
- 27日 議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)
- 28日 比布町遺族会定期総会 (福祉会館、議長)
- 29日 上川中央部市・町議会議長定例会 (東川町、議長)



平成26年12月30日をもって店を閉めた「すずや食堂」。

比布町議会でも会議の昼食に美味しいラーメンやカレーライス、かつ丼等を出前していただきお世話になりました。長い間、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

比布町121年目の新たな年を迎えました。平成27年は節目の年です。戦後70年、そして阪神淡路大震災から20年です。忘れないように、風化させないよう報道されますが、教訓として震災から何を「学び」何を「行う」かが大事です。

新たな比布町地域防災計画も出来ましたが、「どう「活かす」がこれからの課題です。そして今年には地方統一選挙の年であり私ども、比布町議会議員選挙も行われます。今期より定数が11名から9名となりました。町民人口や他町議会の定数などを踏まえて可決しました。

定数を少なくする事とは情報を収集して発信する数が減る事を意味すると私は考えます。新たに選ばれし議員が新たな切り口でどう町を「活かす」かが大事です。定数が減っても今まで以上に町民の声を反映させる議会でありたいと思います。

【今井 明 信】

◆ 編集後記 ◆